回廊 CLOÎTRE
公立大学法人
神戸市看護大学
学報 第16号 2019年7月

展望

ごあいさつ

公立大学法人神戸市看護大学
理事長　北　徹

神戸市看護大学は、阪神・淡路大震災の翌年の1996年4月、神戸市民がまだ仮設住宅での生活を余儀なくされる中、地域の保健・医療・福祉に貢献できる看護専門職者の育成を使命として開学し、以後23年にわたり、優秀で実践力のある看護人材を地域に輩出してきましたが、2019年4月に公立大学法人として新たなスタートを切りました。

我が国は、急速な少子高齢社会が世界に類を見ないスピードで進み、人生100年時代の到来に向けて、高齢者の健康保持、認知症をはじめ、高齢者に特有の疾患に対する医療・介護に関する地域包括ケアの推進が喫緊の重要な課題となっています。

また、情報化・グローバル化が進み、ますます多様化・複雑化しつつある社会の大きな変動の中、日進月歩の勢いで高度化する医学・科学を背景に、看護の現場において、看護職には高い専門性・国際性とともに、豊かな教養が求められています。病院や施設、在宅、行政など多様な職場において、地域の人々の健康と生活を、保健・医療・福祉従事者など多職種とともに支えることができるプロフェショナルとしての役割と力量が求められています。

地域の人々のニーズにこたえることができる看護に携わる者としての心構え、そして必要な知識や技術をしっかりと教育し、このような状況に対応できる人材の育成を図るとともに、さらに、このような背景下における神戸市の解決すべき諸課題を研究し、その成果を還元してまいりたいと考えています。

大学の使命は、教育、研究、その成果を活かした社会貢献であると考えており、人材育成と研究を通した知的創造活動の中核として、地域の未来、地域の医療を支えるという重要な役割を果たすことが求められています。

看護大学は、公立大学法人になりましたが、神戸市とも十分連携・協力し、また、単科大学だけに、周辺の大学と密なる連携を取り合いながら、理事長として大学の進むべき方向や経営方針を明確に示して、開かれた、透明性の高い、スピード感ある運営を進めていきたいと考えています。

市民の皆さんに親しまれ、社会や地域の役に立つ未来志向の大学として、さらなる発展に努めてまいります。

法人化を契機とした新たな取り組み

学長　鈴木　志津枝

神戸市看護大学は、2019年4月1日に法人化し、公立大学法人神戸市看護大学になり3ヶ月が過ぎようとしています。神戸市看護大学の学長として、また法人の副理事長として、神戸市看護大学が公立大学法人に移行したことへの考えや期待を述べたいと思います。まず、法人化により大きく変化したのが、大学運営に学外者の意見を反映させる組織の設置です。組織が円滑に機能することで、理事長及び理事会、経営審議会、教育研究審議会による迅速かつ機動的な意思決定とその責任の明確化、効率的かつ自主的な運営、透明性の向上が期待できます。また、理事長と学長を別置したことにより、学長は教学についての責任者として教育研究活動の活性化に注力することが可能となります。しかしながら、法人化を経験していない大多数の教職員にとって、法人化後の神戸市看護大学の先行きがどのようになるのかが不安になることも推察されます。法人化後の大学運営の成功の鍵は、教職員が法人化のねらいを認識し、合意形成のもとに持てる力を結集できるかどうかにかかっていると受け止めています。

次に、本学は法人化を契機として、法人化のメリットを活かし「中期計画」による様々な特色ある取り組みを実施していく責任が明確化されたことです。中期計画に基づき、教育・研究面では、これまでの23年間の教育・研究実績に加えて、多様な人材の活用による教育・研究活動の充実と活性化、地域課題の解決に向けての学術研究の推進、研究支援体制の充実による外部資金獲得の増加等が期待できます。社会貢献面では、市民との連携・交流による、地域の保健医療への貢献の推進や、地域の看護職の資質の向上と定着促進、国際交流の推進による留学生の受入の増加等が可能になります。管理・運営面では、教育研究組織の評価及び改善や教育環境の整備・充実、情報公開及び情報管理による戦略的な情報発信が可能になります。さらに、神戸市や外部資金の活用による寄附講座の設置が可能になり、教育・研究組織の拡大と共に神戸市看護大学の新たな展開につながっていくと期待しています。

現時点で、まだ法人化のメリットを十分に活かしきれていませんが、全教職員の力を結集して、学生や教職員にとって魅力ある大学に発展させていけるよう、尽力していきたいと考えています。今後ともご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

1年間の大学の動き

在外研究報告：Washington D.C.での食物アレルギーの子どもを取り巻く現状から学んだこと

療養生活看護学領域　小児看護学分野　助教　山本　陽子

食物アレルギーをもつ子どもは誤食やアレルゲンとの接触の機会に晒されており、アナフィラキシーを起こした場合には生命の危機に直結します。そのため、重篤なアレルギー反応を引き起こす可能性のある食物経口負荷試験（OFC）（アレルゲンである食物、例えば卵や牛乳、ピーナッツなどを食べて、アレルギー反応が出現するかどうかをみる試験）は、慎重に行われる必要があります。

今回、在外研究でお世話になったChildren's Nationalは、米国の中でトップ5にランク付けされた小児専門病院です。Washington D.C.での子どもを対象としたOFCは、唯一Children's Nationalで行われていますが、その検査の方法や看護実践自体は日本と大きな差はありませんでした。ただChildren's Nationalでは子どもに対して心理学の専門家が関わるなど、スペシャリストを活用した関わりが試みられていました。

また、食物アレルギーの子どもに対するWashington D.C.のヘルスケアシステムや学校におけるリスクマネジメントについて関係者に話を聞くことで、食物アレルギーの子どもたちの基本的なリスクマネジメントとして、アレルギー食物の除去と、アナフィラキシーに対応できるようにエピペンの普及や対応の充実がなされていることが分かりました。さらに日本と異なり全学校にスクールナースがいて、学校教員に対してアレルギー対応に関する教育が行われる制度が整っており、子どもが学校でアレルギー反応を起こした場合の安全管理がなされていることも分かりました。

米国では基本的にはOFCを基にアレルギー反応のあるものについては除去していくことが治療の基本となっていますが、アレルギーのある食物を食べることに対して子どもや親が抱く思いや、そこに対する看護ケアは日本と同じでした。子どもの安全を第一に考えながら、出来うる限り時間をかけて子ども自身のことについて知ることや、安全な気持ちでいるかどうか、気になっていることはないかなど、子ども自身の「気持ち」をしっかりと聴く姿勢を持ちながらチームで関わることが、子どもの治療への意欲や納得した治療への参加に繋がるのだと改めて実感する機会となりました。

米国滞在中に関連機関、関係者に繋いでくださったChildren's National のDr. Pamela S. Hinds 氏およびお世話になった大勢の方々に心より感謝いたします。

Dr. Pamela S. Hinds 氏（左）と筆者（右）

Children's National のメインホスピタル

フィリピンの自宅出産

健康生活看護学領域　公衆衛生看護学分野　助教　山下　正

私はこれまでにフィリピンの自宅出産に関する調査を行ってきました。フィリピンでは、経済的に余裕がない家庭は自宅出産を選択することが多い現状にあります。フィリピンの自宅出産は日本の自宅出産とは異なり、「自宅で伝統的産婆がお産介助する出産」のことを示します。伝統的産婆は地元でヒロットと呼ばれ、助産師などの医療関係の資格を持っていませんが、代々継承されてきたヒロットの技や経験に基づいた知識をもっています。フィリピンでは病院や保健センターでの出産は無料ですが、貧困層に属している家族は有料の自宅出産を選ぶことが多いです（ただし、病院では合併症などがある場合は一部の検査や薬代が有料）。なぜ有料の自宅出産を選ぶのか。一つの理由が、安心して出産できるヒロットの存在があるからです。私が住民に話を聞いたところ、多くの女性はヒロットをとても信頼していました。もう一つが、フィリピンでは一世帯あたりの子どもの数が多く、母親は子どもの世話のために家を離れることが難しい現状にあるからです。最後に、妊娠中の女性は自分に大きな病気はないだろうと、やや楽観的に体調を判断し、そのことで自宅出産を選ぶ状況にあるからです。現在、フィリピンの妊産婦の死亡原因の上位には出血に起因したものが多く、その一部が自宅出産と関係していると言われています。そのため、リスクの少ない（自宅）出産へとシフトしていく必要があります。ヒロットというフィリピンの健康を守ってきた文化を尊重しつつ、近代的な医療とうまく融合することで、従来より女性の健康を守ることができるかもしれません。

どの国でも古くから伝わる言い伝えや、代々継承されてきた健康法があります。フィリピンもヒロットの存在はそれにあたり、多くの大切な言い伝えがヒロットにより継承されてきました。一方で、自宅出産により健康危機にさらされる女性も少なくありません。伝統的な文化と近代の保健システムがどのように融合できるのか、女性の健康を守る上で重要な課題となっています。

ヒロット（右）と著者

法人化へのあゆみと今後

経営管理課 総務係長　武藤　剛

神戸市看護大学は、2019 年3月までは神戸市の1つの組織として運営されてきましたが、2019 年4月1日から神戸市が「公立大学法人神戸市看護大学」という名称の法人を設立し、この法人が運営する形態に変わりました。

「公立大学法人」は、公立大学を設置・運営するために地方独立行政法人法に基づいて設立される法人で、これまで神戸市の予算の下で行ってきた大学の運営を新たに設立する公立大学法人が、民間的な手法も取り入れた経営的視点を持って行うしくみです。

理事長のトップマネジメントを活かした機動的・効率的な大学運営が図られ、大学運営への学外者の参画や積極的な情報公開により、透明性も高められることとなります。

公立大学法人化に向けての経緯は、次のとおりです。

2018 年3月	神戸市会において定款が議決され、制定
2019 年3月	神戸市会において中期目標の議決
2019 年3月	文部科学省、総務省において、法人の設立申請に対する認可
2019 年4月	公立大学法人神戸市看護大学の設立

公立大学法人化に伴い、大学の運営面では民間的な発想によるマネジメント手法が導入され、運営の機動性や効率性が向上するとともに、予算、組織等の規制が緩和されることから、大学の自主・自律的な判断に基づく弾力的な業務運営が可能となるほか、中期目標や中期計画に沿った措置を執ることにより、将来を見据えた計画的な大学運営を行うことができるようになります。

教育面では、教育の内容や方法、実施体制、教育環境の整備・充実、学習支援やキャリア開発・就職支援対策等の強化に向けて、計画的に取り組んで参ります。

そして、大学を取り巻く環境の変化や新たな課題に迅速で的確に対応し、神戸市看護大学の設立目的である「地域社会の保健・医療・福祉に貢献できる看護専門職の育成」に資するとともに、自律的・効率的で透明性の高い大学運営の体制を構築してまいります。

今後とも、更なるご支援をいただきますよう、よろしくお願いします。

k-spring peer の活動報告

k-spring peer　看護学部4回生　長船　瑞季

みなさん、こんにちは！ k-spring peer です。

私たちは“いっしょに、悩んで、話し合おう。”をあいことばに兵庫県内の中・高校生の仲間 (=peer) と「生」や「性」について考える活動をしています！

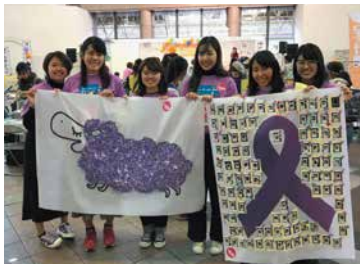
大人にも学校のともだちにも話せないことがたくさんある、けれども誰かに話を聞いてほしい、そんな思いを持った思春期にある中高生の仲間に対して、年齢が近い大学生の私たちだからこそできるこの活動を、私たちは時に中高生にパワーを送りながら、時に中高生にパワーをもらいながら、みんなで楽しくにぎやかに行っています。

主な活動としては、中・高校でのエデュケーション活動や、中高生が気軽に立ち寄り談話できる地域のフリースペースでのピアルームの開催、パープルリボンキャンペーン (デート DV 防止キャンペーンやエイズフェスタ (AIDS 啓発活動) 等のボランティア活動への参加を行っています。

また他にもジャパンユースフォーラムや IPPF ESEAO Regitional Youth Fortum@ クアラルンプールといった日本国内だけではなく、時には世界へも飛び出して、若者が置かれている状況や抱えている課題について学び合い、自分たちはどうしたいのか、またどんな支援等が必要かについて考える活動も行っています。

k-spring peer の活動は今年で 16 年目を迎えますが、昨年度は、今まで少しずつ積み重ねてきた活動がひとつのかたちとして実を結び、神戸市から、社会・文化・スポーツの各分野で活躍し、業績を顕著及び奨励に値する活動を行った青少年を表彰する、こうべユース賞をいただくことができました。

これからも私たちは、自分たちの活動の幅を広げていくとともに、少しでも多くの中高生の役に立てるようみんなで支え合い、協力し合いながら楽しく活動していきたいと思っています。またどこかで活動している姿を見かけましたら、ぜひお声かけください！



修了生から

2018年度修了　古田 愛美

私が神戸市看護大学大学院に初めて足を運んだのは、2016年の春。大学院オープンキャンパスでした。自主的に学ばなければ、何も得られない場所であると何度もオリエンテーションで先生方よりお話があった時には、非常に緊張したことを覚えています。しかし、一大決心をしてやってみようと飛び込んでみました。

私は大学院に進学する前、7年間大学病院の呼吸器内科で働いていました。肺癌の患者さんが多く入院する病棟で、日々繰り返していくケアに疑問と言いようのない疲労感を覚えていました。これでいいのだろうか、このままの私の状態で人にケアを行い、後輩指導をしていていいのだろうか、そう思ったことがきっかけです。そのような言いようのない不全感を、大学院教育ではとことん突き詰めて考える機会を多くいただきました。臨床で働いていた時、根拠が不十分なまま経験測から発言していたこと、患者さんや家族のためと言いつつ、よく掘り下げると自分自身の恐怖感から発言や行動をしていたこと、沢山の耳が痛くなるような事実と向き合いました。楽ではない、けれども楽しかった、それが私の大学院生活の思い出です。

現在は大学院を修了し、再び大学病院で働いています。現在は整形外科・乳腺内分泌外科という混合病棟で勤務しています。大学院に行かなければ見ることがなかった視点で患者さんと向き合っている自分と出会っています。患者さんが抱えている痛みが、過去そして現在、そして今後の生活にどのように影響をするのか、そして一番患者さんが大事にしたいと考えていることをするのに、どのような障害となるのか。今まで何の疑問も抱かずにやり過ごしていたことに立ち止まり、何度も本当にこれでいいのかと考える機会も多くなりました。知らなかったことを知る機会をいただけた、大学院での学びは確実に私の人生において大きな糧となっています。まだ、私自身は大変未熟であり、気が付いたことを誰かに伝え、共に考えてケアを向上させていくという位置になかなか立てていないと反省することも多いです。しかし、確かな実践を積み重ね、発言に自信を持ち、より多くの患者さんや家族、そして共に働く医療者と手を取り合って最善策を考えていきたいと思います。

2019年度新任教員　自己紹介

健康生活看護学領域　公衆衛生看護学分野　教授　岩本　里織

この度、健康生活看護学領域公衆衛生看護学分野に就任いたしました岩本里織です。専門分野は、公衆衛生看護学、地域看護学です。

私は、5年前まで本学で勤務しておりましたが、退職し、徳島大学大学院医歯薬学研究部教授として地域看護・在宅看護の教育・研究に従事しておりました。この度、再びご縁があり、神戸市看護大学で勤務することとなりました。人口減少・超高齢化が進む地方都市と政令指定都市である神戸市では、地域における看護の充実状況が大きく違うことを実感しております。看護師・保健師を学ぶ学生の皆さんと一緒に、地域の特徴や将来の在り方を考えながら、地域での看護の展開方法や役割を検討していきたいと思います。

神戸市看護大学の発展および学生の皆様に貢献できるように、日々精進していきたいと存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

健康生活看護学領域　精神看護学分野　教授　船越　明子

神戸生まれ、神戸育ちですが、都会への憧れから大学卒業後は東京の病院に就職しました。その後、大学院への進学、看護系大学での教員を経て4年前に故郷に戻ってきました。高校生と小学校低学年の年の差きょうだいの母親でもあります。

“子どものメンタルヘルス”や“ひきこもり”について研究しています。実践に役立つ研究を目指し、こころのケアの見える化を試行錯誤しています。また、精神疾患を経験した人がその経験を活かして支援者として働くピアサポートの促進にも取り組んでいます。

精神看護は、あらゆる看護の場で重要な学問分野です。学部教育では、精神看護への興味をもってもらうこと、精神面の不調を抱える人を包括的に理解できるようになってもらうことに最も力を入れています。大学院では、精神看護の専門性を用いて、臨床場面で生じる困難な状況を解決に導くことができる研究者や専門看護師をめざして、個別的な指導に力を入れています。

教育、研究、実践を通して、いろんな方と出会えることに喜びを感じています。どうぞよろしくお願い致します。

専門基礎科学領域　医科学分野　准教授　藤永　竜太郎

今年度より、専門基礎科学領域医科学分野の准教授として着任いたしました、藤永竜太郎と申します。山口大学で17年間にわたり解剖学教育に携わってきました。これまでの経験、特に骨学実習、解剖学実習、脳実習の経験を生かし、学生の皆様に自分の体を感じられるリアリティーのある教育を行いたいと思っております。また、神戸市看護大学では解剖学に加え病態学も担当いたします。正常構造・機能からその破綻についてストーリー性を持った教育を心がけたいと考えております。研究に関しては、主に神経変性疾患関連遺伝子の脳内発現とその機能について解析してきました。過去の研究経験や技術を活かしながらこの大学でオリジナリティーの高い研究を立ち上げようと思います。

理想を求めつつも、まだ教育・研究共に日々格闘しておりますが学生の皆様、そして教職員や保護者の皆様も含め関係者の方々、今度ともどうぞよろしくお願いいたします。

健康生活看護学領域　老年看護学分野　准教授　服鳥　景子

はじめまして。健康生活看護学領域老年看護学分野准教授として着任いたしました。

1995年神戸市立看護短期大学の卒業生です。震災時に看護学生でありながら何も役に立てなかった悔いを心の片隅に抱きつつ、病院や訪問看護ステーションでの看護師経験を経て、大学院留学後に教員となりました。私の研究テーマは、『高齢者の「よい死」とは何か』です。これは、震災で突然命を絶たれた学友や多くの一般市民の方々、そしてその生き様をもって生と死の尊さを直接教えてくださった患者さんとそのご家族に由来します。よい死とは生の全うなのだと思います。母校に戻る機会を得られたことに感謝し、本学学生および神戸市民の皆さまに出来得る限りの貢献をして参りたいと思います。趣味は舞台鑑賞で、宝塚から吉本新喜劇まで何でも好きです。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

健康生活看護学領域　ウィメンズヘルス看護学分野　准教授　井上　理絵

健康生活看護学領域ウィメンズヘルス看護学分野に着任いたしました、井上理絵です。3月までは岡山県で助産学専攻科の教員として勤務しておりました。現在も岡山から新幹線通勤をしていますが、今まで車での通勤ばかりだったため、公共交通機関での通勤はとても新鮮です。

岡山県出身の私ですが、大阪・兵庫での勤務経験もあります。大阪の個人病院では、フリースタイル出産を経験しました。本来女性に備わっている“自然に産む力”を支える分娩スタイルは実施している病院が少なく、私の中では画期的でした。その後、保健指導で開業助産師も経験しましたが、現在は更年期女性のカウンセラーとして、女性の健康教育に力を注ぐ活動をしています。助産師は「妊娠・分娩の専門家」と思われがちですが、女性と家族の生涯に寄り添うことも助産師の力の見せどころ。女性や家族を支える助産師を皆さんとともに目指していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

療養生活看護学領域　小児看護学分野　助教　清水　千香

静岡県で生まれ育ち、大学時代を京都で過ごしました。最初はカルチャーショックの連続でしたが、すぐに関西が好きになり、それ以降のほとんどの時間は関西で暮らしています。今は海のない街に住んでいますので、神戸の海と山の風景、潮風を感じては故郷を懐かしく思い出しています。

私は一般企業で社会人を経験してから看護の道に入り、神戸市内の公的病院で勤務した後、大阪府内の大学への編入学を経て本学の大学院（博士前期課程）を修了しました。病院では新生児集中治療室（NICU）と回復治療室（GCU）、小児病棟での看護を経験し、そこで出会った多くの子どもとご家族から、彼らが自らの力を発揮して自宅での楽しい時間を過ごすことを支援できる看護のやりがいを教えていただきました。教員は初めてですが、子どもってすごいな、小児看護っておもしろいなと思ってもらえるよう、学生の皆さんと一緒に学びながら教員として成長していきたいと思っています。

2019年度新任教員　自己紹介

健康生活看護学領域　ウィメンズヘルス看護学分野　助教　沼田　富久美

はじめまして。今年度より健康生活看護学領域ウィメンズヘルス看護学分野で助教として着任しました沼田富久美(ぬまたふくみ)と申します。看護師・助産師の資格を持ってから、地域周産期母子医療センターで11年勤務しました。臨床の場では、たくさんの生命の誕生の場に立ち会いつつ、責任の重さを感じながらも、同時に助産師としての仕事のやりがいも強く感じました。

4月からは初めての教員生活で、毎日緊張の連続ではありますが、学生の皆さんが授業・実習を通してより看護の面白さを感じられるよう、お手伝いが出来たらと思っています。教員としてみなさんと一緒に成長できるように頑張っていきたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

健康生活看護学領域　ウィメンズヘルス看護学分野　助教　比名　朋子

今年度より、健康生活看護学領域ウィメンズヘルス看護学分野の助教に着任いたしました。私の産まれは京都で、4歳からは広島県東部の街で育ちました。大学以降は岡山県で過ごしていたので、関西弁を喋る人々に囲まれながら時々無性に岡山弁を口に出したくなるかもしれないので、急に「じゃーじゃーがーがー」言っていても驚かないでくださいね。

私は大学院で助産師と修士を取得し、臨床でずっと働いてきました。教員1年目で右往左往する日々ですが、今何をすべきか考えながら、そして楽しみながら過ごしています。与えられる情報を鵜呑みにせず、自分なりに調べ考える力や柔軟性、応用力は生きていく上でも必要なスキルです。4年間の大学生活、色々なことを経験し学んで自分を育ててください。考える看護師・助産師になれるよう、皆さんのサポートが出来ればと思います。よろしくお願いします。

健康生活看護学領域　ウィメンズヘルス看護学分野　助教　矢野　薫

この度、健康生活看護学領域ウィメンズヘルス看護学分野に着任いたしました。どうぞ、よろしくお願いいたします。

現在大阪在住ですが、神戸の街を散策することもたのしみの1つとなっています。

教員生活初めてですが、臨床で助産師として働いていたときには気づかなかった新たな視点など、学生に学び・刺激を受けながら一緒に頑張っていきたいと思います。助産師は、妊娠・出産・産後だけなく、女性のライフサイクルに沿って関わることができます。新しい命の瞬間に立ち会わせていただくこともできる一方で、なかには、望まれない妊娠や、赤ちゃんやお母さんが命を落とすことなど、必ずしも喜ばしいときばかりではありません。そこで、女性のライフサイクルに沿って、どのように母子やその家族に接していくのか、ここも看護職としてとても重要な関わりだとおもいます。このことを皆さんと一緒に考え取り組んでいきたいと思います。

療養生活看護学領域　急性期看護学分野　助教　髙田　大樹

はじめまして。今年度、急性期看護学分野の助教に着任いたしました、髙田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。私は京都府の市内からは少し離れた場所で生まれ育ち、大学への進学で徳島県へ、その後は大阪府や兵庫県と、ずっと関西圏内で暮らしています。

臨床では小児周産期専門病院の新生児集中治療室や小児集中治療室、急性期総合病院の救命救急センターで勤務してきました。集中治療・救急という環境で、新人看護師は学生時代の実習と臨床での思考と実践に大きなギャップを体験していると感じていました。学生さんと関わる中で、自身の臨床経験を活かし、大学の看護基礎教育での学びを臨床での看護に繋げる橋渡しの役割を担うことができればと思っています。

今年が教員1年目です。自身も教員として成長できるように学びながら、講義や演習、実習を通して、たくさんのことを学生さんと一緒に経験し、看護の魅力を共有していきたいと思います。

療養生活看護学領域　慢性病看護学分野　助教　桑原　京子

私は、以前、大阪府の急性期病院や兵庫県の糖尿病専門病院に勤務していました。そのうち7年間は糖尿病看護認定看護師として糖尿病看護に携わりました。臨床では多くの患者さん・ご家族と出会い、自分らしく生きそして逝くことについて深く考え、看護のあり方だけでなく、人として大切なことについても多くのことを学ばせていただきました。その後、患者さんからいただいた宿題の糸口を自分なりに探るため、本学の大学院(博士前期課程)に入学し、今年の3月に修了しました。

これまで、臨地実習での学生さんとの関わりで、患者さんのベッドサイドにともに行き、学生さんが看護の勉強に真摯に向き合っている姿を見て、私自身改めて看護について考えるという貴重な経験もしました。私の臨床での経験、大学院で学んできたことを活かし、看護師を志す学生さんの学びを支え、看護の魅力や楽しさを伝える役割を担いながら、学生の皆さんとともに成長していきたいと思います。

大学の1年間

行　事

2018年	8月 23日	大学院入学試験(8月29日合格発表)
	9月　1日	大学院特別講演会「混合研究法について」
	9月　7日	編入学試験(9月20日発表)
	9月 15日	看護専門職講座「看護師の語りから見えてくるもの」
	9月 28日	卒業式　修了式
	11月 17日	推薦入学試験(12月3日発表)
2019年	1月 19日～20日	大学入試センター試験
	1月 26日	大学院特別講演会「ヘルスリテラシーと意思決定支援」
	2月　9日	大学院博士前期課程入学試験(二次募集)(2月13日合格発表)
	2月 25日	一般選抜入学試験前期日程(3月6日合格発表)
	3月　2日	大学院オープンキャンパス
	3月　5日	大学院助産学実践コース特別講義 「医療事故調査制度の現状と看護職の役割」
	3月 12日	一般選抜入学試験後期日程(3月20日合格発表)
	3月 13日～26日	シアトル(アメリカ)海外看護学研修
	3月 15日	卒業式　修了式
	3月 16日～23日	ダナン(ベトナム)海外看護学研修
	4月　5日	入学式
	4月　6日	特別講演会「マナー講座」
	5月 25日	あざみ祭・ホームカミングデイ・大学院ミニ受験相談会
	8月 10日～11日	オープンキャンパス(予定)

2018年度　学生表彰受賞者

学生表彰とは…

学業成績が優秀で、他の学生の模範となるような学生や、ボランティア活動などで高い評価を受けた学生に贈られる賞です。

被表彰者・団体

◎学生活動

自治会　4年　田中　慎

「K-spring Peer」部　4年　4名（加藤　多香子・森定　佳那子・山口　奈美瑛・繁戸　美佳）

◎成績優秀者

4年　大鳥　夢花

人事

退職

2019年	3月31日	渡邉	定博	教授
	3月31日	安藤	幸子	教授
	3月31日	都筑	千景	教授
	3月31日	藤井	ひろみ	准教授
	3月31日	奥山	葉子	助教
	3月31日	平田	恭子	助教
	3月31日	山尾	美希	助教
	3月31日	松野	史	助教
	3月31日	﨑山	愛	助教
	3月31日	萩岡	あかね	助教
	3月31日	滝川	由香里	助教

就任

2019年	4月 1日	北	徹	理事長

採用

2019年	4月 1日	船越	明子	教授
	4月 1日	岩本	里織	教授
	4月 1日	藤永	竜太郎	准教授
	4月 1日	井上	理絵	准教授
	4月 1日	服鳥	景子	准教授
	4月 1日	矢野	薫	助教
	4月 1日	比名	朋子	助教
	4月 1日	桑原	京子	助教
	4月 1日	沼田	富久美	助教
	4月 1日	清水	千香	助教
	4月 1日	髙田	大樹	助教

2018年度国家試験合格状況

	保健師	看護師	助産師（大学院）
受験者数	20名	93名	5名
合格者数	19名	92名	5名
合格率	95.0%	98.9%	100.0%

2018年度学部卒業生・大学院修了生

学部卒業生	101名
大学院博士前期課程修了生	21名
大学院博士後期課程修了生	1名

2019年度入学生

学部1年次	95名
学部3年次編入	6名
大学院博士前期課程	21名

オープンキャンパス予告

2019年度のオープンキャンパスは2019年8月10日(土)、11日(日)に実施予定です。本学入学をお考えの方をご存知でしたら、どうぞお声をおかけください。詳細は本学HPをご覧ください。

編集後記

神戸市看護大学は4月から公立大学法人となりました。第16号の「回廊」では北理事長、鈴木学長からのメッセージとともに、昨年度からリニューアルした新任教員の紹介ページや修了生の活躍を伝えるページも継続しております。本学の現在とこれから本学がめざす姿を伝えられる広報誌になるよう努力して参りたいと思います。

公立大学法人
神戸市看護大学

〒651-2103　神戸市西区学園西町３丁目４番地
電話：078（794）8080（代表）　FAX：078（794）8086
https://www.kobe-ccn.ac.jp

2019年７月発行　神戸市看護大学事務局経営管理課

この印刷物は、地球環境保全につながる「植物油インキ」を用い印刷しています。